

北九州革新懇ニュース

平和・民主・革新の日本をめざす北九州の会
〒803-0817 北九州市小倉北区田町13-21 田町ビル3F
TEL093-592-5000 Fax093-571-4346
E-mail k-kakushinkon@ace.ocn.ne.jp

全国革新懇「三つの共同目標」

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権・民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

玄海原発を上回る発電量 響灘に140基の風車 見て、聞いて、守ろう安全な街

若松革新懇事務局 三輪 幸子

若松革新懇では、5月10日に開いた響灘洋上風力発電の見学と出前講演、学習会の時にだされた「低周波の人体や環境への影響」についてくわしく知りたいという要望を受け、9月10日、第2弾の学習会にとりくみました。

福岡女子大学名誉教授の真鍋征一先生(工学博士)には「低周波が人体にどのように伝わってくるか」について、渡邊耳鼻咽喉科院長の渡邊宏先生(医学博士)には「低周波の人体への影響」についてお話していただきました。

60名の参加者が熱心に学び、質問や意見がたくさん出されました。

真鍋先生のお話しでは「風力の低周波問題とは」とまず定義から解説。

風力を原因として発生する波動や振動のうち周波数の低い成分が人間の生活空間に与える影響で、音であれば低周波音は100Hz以下、20Hz以下を超低周波音(人間には音として聞こえない)。固体であれば地震の例のように波動として認識する(例、地震では10~20Hz、低周波地震では1~2Hz)。

前提として2014年12月19日、消費者省安全調査起因会(消費者事故調)が「家庭用ヒートポンプ給湯機(エコキュート)から生じる運転音(耳で聞こえる)・振動(疲労振動=繰り返す・共振)により不眠等の健康症状が発生する」と結論づけたことを紹介。

風力発電で低周波障害がなぜ起こるのかについて、風のエネルギーが風車の回転エネルギー



に変換、その際一部は空気との摩擦(熱)として波動エネルギーへ。回転エネルギーは電気エネルギーと力学的振動エネルギー、その他(熱など)のエネルギーへと変換する。波動エネルギーは風車の近郊で障害を起こす。力学的振動エネルギーは①横波として地盤をほう(地震と類似)②縦波として大気や海水中を伝う。②は低周波音として障害をもたらすが、空気の遮断などで防ぐのは比較的容易。

低周波障害の防止策として①発電効率の上昇②振動エネルギーの消失③干渉(波が重なる現象)、反射、屈折などをうまく利用すれば防ぐことができるとして、風力発電は、制御できない原子力発電に対して人間が制御できるものだと話されました。

渡邊先生は、パワーポイントで実際に身体に障害が起きている人やネズミでの実験結果などについて解説されました。

人間が聞こえる音域は16Hz～2万 Hz、100 Hz 以下の低周波で聞こえないものが被害をもたらす。聞こえていなくても振動が頭蓋骨を伝って耳に届いている。

無聴室に入った人の実験で、20Hz の低周波を流し続けると、胸のしめつけ感や不安感、嫌な感じ、耳鳴りなどの症状を全員が訴えた。

ネズミの実験では、元気に動き回っている箱の中にネズミが聞こえない低周波を流すと箱の隅に固まって動かなくなり、ストレスが溜まった時に出る副腎ステロイドホルモンが検出され平衡感覚に異常をきたしたのも出た。

実際の人の生活の中では長く低周波が流れるところにいると、各器官が疲労し、質の良い睡眠が妨げられ日中眠気に襲われたり、めまい、耳鳴り、平衡感覚の異常などいろいろな症状が現れる。これらの症状は、発生元から離れるほど少なくなるが、2kmはなれたところでも反応する人がいる。もっときちんと調査する必要があると話されました。

会場からは、「1年前、市の環境調査があり若松区役所で結果の閲覧があったが来た人はゼロ。動植物への影響や低周波についての調査はな



く、もっと詳しい調査をして区民に知らせるべき」との発言がありました。

「聞こえない音の被害の大きさを知って恐ろしくなった。安全な環境・安全な生活のための開発であってほしい。」との感想も出され、今後は「若松の洋上風力発電を考える会」(仮称)を立ち上げてこれからの取り組みを考えていこうということになりました。

9月24日、第1回準備会が開かれ、低周波についてももう少し深く学習する場を持つことになり、次回準備会(10月14日)で学習会などを企画します。

小倉南革新懇定例学習会に65名参加

「新聞報道～マスメディアの役割」 講師 林田英明氏

平和・民主・革新の日本をめざす小倉南の会(小倉南革新懇)は9月17日(土)小倉南生涯学習センターで「新聞報道～マスメディアの役割」について、定例学習会を行いました。講師に毎日新聞西部本社在勤の林田英明氏が講演。過



小倉南革新懇事務局 黒坂 佳男
去最高の56名が参加しました。

最初に有馬和子世話人から第3次安倍内閣が決定され、稲田朋美防衛大臣が入閣、早速改憲準備の戦争訓練が行われている。国民が不安に思っているときこそマスメディアの果たす役割は非常に大切です。「今日は現場からの声を聴けるとおもいます」と挨拶。北九州革新懇代表世話人の三輪俊和氏から「小倉南革新懇は情勢にふさわしい学習会を行っていて、明るく、楽しく、学んでいる。今日は私も一緒にしっかり勉強したいとおもいます」。と述べられました。

講演はメディアの内部で何が起きているか、国民一人ひとりがメディアの報道に対し正確に受け止め、どう発信していくかが問われています。

テレビ報道に対しても、NHKの籾井会長が「政府が右と言えば、右と言わなければならない」との発言やニュースキャスターの降板は「中身はわからないが何か動いている」と感じなければならぬ。また、若者に新聞を読んでもほしいが、ネットで大丈夫という若者が増えており、新聞を読まない人が常識化している。新聞の価値や社会の変革のためにも読んでほしいし、国民が読みたくなるような記事を書かなければいけないのではないか。

最近では、高市早苗総務相が「成長する国」を訴えているが、政治的公平性を欠く放送を繰り返した場合「電波停止」を命じることができると発言していること。また、安倍首相は「国の方針に従わないものは国民ではない」という考え方など、政権のメディアへの介入が推し進められていま

す。沖縄では辺野古や高江など「なぜアメリカの尻馬に乗っていかなければならないのか」と住民の闘いが起こっています。安倍首相の暴走を止めるためにも、市民と野党が共同して声をあげていく必要があります。最後に「マスメディアの怖いところは、一定の方向に流れてしまうと全てのマスコミがその方向に流れてしまう事です。紙面にも一定の限界があり、何が真実かは国民が見分ける力を身に付け、見極めていかなければならない」と述べられました。

学習会に参加したMさん(72)は「新聞の購読が激減しているので驚いた。特に朝日、毎日の減紙が目立っている。マスコミの委縮はどこから来ているのか。官邸、スポンサーを意識して批判できないのか」の感想が寄せられました。学習会終了後1名が入会しました。

JR九州は乗客の安全を守れ 筑豊線若松駅・中間駅など7駅の無人化は許されない!

JR駅の無人化計画は、北九州市「9月議会」において山内涼成議員の質問に対し、市は6月にJRから説明を受けたとし、その内容を明らかにしました。

JRの計画は、◆若松～直方間の無人化する各駅にインターホンを設置する。◆中間駅に専属オペレーターを配置し「遠隔管理システム」を導入する。◆無人化の対象駅は若松・奥洞海・二島・本城・中間・鞍手・新入の7駅。残り藤の木・東水巻・筑前垣生・筑前植木は既に無人化している。駅員配置駅は折尾駅と直方駅だけ。◆無人化の理由は経費削減のため。◆実施日は来年3月の予定。

2014年度の乗客数 若松駅 1,317人 藤の木駅 282人 奥洞海駅 403人 二島駅 1,339人 本城駅 1,277人

JRは、各駅に監視カメラ、インターホン設置で安全性が高まると主張している。しかし、無人化で利用者の安全や利便性も低下し、治安の悪化も懸念され、ホームの高さでは老人の乗客が降車の際、ドアに挟まれ他の乗客に助けられた例や、ホームの高さ、離れなど構造的な問題、バリ

八幡西革新懇 嶋 國勝

アフリーに逆効する問題、障害者対策、自動券売機で対応できない乗車券の問題等、無人化では乗客の安全もサービスも守れません。

JR九州は、徳辺な社会的な責任を負う企業で



す。1987年4月、国鉄・民営化で発足したJR九州は、国の経営安定基金3,877億円で多額の運用益を得てきました。

鉄道ネットワーク維持・地域住民へのサービス確保のため、駅・線路の固定資産税・都市計画税は(2014年度54億円 2015年度65億円)減額されています。

鹿兒島線・筑豊線連続立体化・折尾駅舎建替工事の総費用は、354億円ですがJR九州の負担額はその10%わずか35億円です。

市議会で問題となった駅無人化問題にJRは誠意ある態度を示していません。

- ◆ こうしたJRの態度に、市長、局長等から「安全性や利便性の確保が重要だ」「現状維持を」「市民は納得しない 計画の見直しを」などとJRに申し入れた。
- ◆ 若松区選出市議6人も全員でJRに申し入れを決めた。
- ◆ 若松区内3高校の内2校がJRに申し入れて

います。

今、筑豊線無人化反対の運動は、市とJR九州市議会・JR利用者・市民ぐるみに広がっています。JR九州は10月にも株式を上場する見通しです。職場ではこの機に「ワンマン化」駅無人化など駆け込み合理化で人減らしを強行されています。ある新聞の社説は、株上場を前にしたJR九州に「鉄道会社の最も重要な使命は、乗客を安全に目的地に届けることだ」と述べています。

10月22日 革新懇シンポ 市民と野党の共闘発展をめざす懇談会

全国革新懇(平和・民主・革新の日本をめざす全国の会)は、シンポジウム「市民と野党の共闘の発展をめざす懇談会」を10月22日に都内で開きます。

「市民と野党の共闘」が切りひらいた今日の情勢と運動の到達にたって、共闘の発展への課題と展望について自由・率直に意見交換し、運動の方向を探求することを目的にしています。

パネリストに、神戸女学院大学教授の石川康宏、全労連議長の小田川義和、安保関連法に反対するママの会の西郷南海子、日本共産党委員長の志位和夫、安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合呼びかけ人の中野晃一、「オール徳島立憲・平和・共生県民連合徳島」代表の横山良の各氏が報告します。各地・各団体からの発言もあります。

日時 10月22日(土)午後1時開会

場所 都市センターホテル。入場無料

主催 全国革新懇

問い合わせ・申し込み 全国革新懇TEL03(6447)4334、ファクス03(3470)1185



石川康宏氏



小田川義和氏



西郷南海子氏



志位和夫氏



中野晃一氏



横山良氏